



CORNER ITALIANO | 公式資料

ダヴィデ事例

完全な記録、離脱、再開

2050 年テストの記入例

改訂英語版本文に準拠・資料の基準時点：2026 年 7 月・資料版 JA-R2.3

<https://www.corneritaliano.com/ja/2050/resources/>

この物語上のシナリオの読み方 この記録は、根拠の状態と組織としての決定を区別します。七つの問いがすべて記録されていても、「委任しない」は選択できます。有能な製品であっても、特定の状況では、サービスから離脱する作業も含め、監督と依存を正当化するには便益が小さすぎることがあります。

事例の時系列

時点	根拠と決定
試験運用前	離脱テストに失敗します。記録は読めますが、設定とアクセス権限を再構成できません。試験運用は開始しません。
二回目の離脱テスト	チームは別の環境で案件を再開し、アクセス権限を再割当てし、主要サービスなしで業務を継続します。
開始	決定：九十日間「範囲を限定して試す」。最初はシャドーモード、その後は「提案」モードだけを用い、自律的な実行は行いません。
試験運用中	システムは有用な先例を見つけます。起こり得る誤りとして、合意した制限を付けずに条項を再利用します。契約書は送信されません。
2050 年 10 月 15 日	監督、研修、実地育成、離脱を差し引くと、正味の便益は小さく、不安定なままです。決定：「委任しない」。
2050 年 10 月 16 日	記録には「しない」コストも残します。待機中の提案、請求できない作業時間、提供事業者への支払残高、失った顧客一社です。
終了	最終エクスポート、アクセス権限の取り消し、提供事業者の支援なしで無作為に選んだ一案件を再開すること。
2051 年 4 月 15 日	より狭い提案について再開します。先例検索のみ、終結済み案件、シャドーモード、外部への影響なしとし、引き続き「しない」を選べます。

2050 年 10 月 15 日現在の記録と、その後の追跡

項目	2050 年 10 月 15 日現在の記録と、その後の追跡
システムと決定	契約業務のための運用ツイン。九十日間の試験運用後に導入するかを決めます。まずシャドーモード、根拠が成り立つ場合に「提案」モードへ進みます。
状況と影響を受ける人々	ダヴィデの小規模企業、契約責任者、実地育成中の若い同僚、営業責任者、提案に拘束される顧客と契約相手。
目的 - 十分	例外の見落とし、遅い訂正、理解されていない約束を増やさず、滞留業務と準備時間を減らします。組織運営上の代替策も、同じ必要性に照らして評価します。
委任範囲 - 十分	ツインは先例を比較し、逸脱を指摘し、代替案を作成します。「決定」や「実行」モードは使わず、送信も署名もしません。勤務シフト、価格、人事、契約上の約束は対象外のままです。監督者一人が追う進行中の手続は十二件までとします。これはシナリオ上のしきい値であり、実際の負荷の下で見直します。

項目	2050 年 10 月 15 日現在の記録と、その後の追跡
根拠 - 十分	コストの高い例外を含む終結済み案件、シャドー利用、その後の「提案」モード、模擬インシデント、実際の負荷。システムは有用な先例を数多く見つける一方、決定的な点で一つのもっともらしい誤りを犯します。便益は実在しますが、小さく、不安定です。
配分 - 十分	総削減額を、専門家の作業時間、研修、実地育成、顧客の待ち時間、離脱作業と分けて記録します。若い同僚には案件を再構成するための専用時間を確保します。

2050 年 10 月 15 日現在の記録と、その後の追跡 - 続き

項目	2050 年 10 月 15 日現在の記録と、その後の追跡
損害 - 十分	起こり得る失敗：情報源と例外を理解する前に、条項から制限が抜け落ちるか、リスクが移転します。署名前には介入可能時間がありますが、それによって損害が無視できるものになるわけではありません。
救済 - 試験運用では十分	外部への影響は一切自動では生じません。契約責任者は再開、変更、阻止、一時停止を行うことができ、介入は記録され続けます。営業責任者の異論を保存しますが、それは契約相手の救済に代わるものではありません。
離脱 - 阻止条件、その後に十分	最初のエクスポートでは設定とアクセス権限を再構成できないため、試験運用は始めません。二回目のテストでは、チームが別の環境で案件を再開し、主要サービスなしで業務を継続します。終了時には記録と設定をエクスポートし、提供事業者の支援なしで無作為に選んだ案件を再開し、アクセス権限を取り消します。
暫定決定	範囲を限定して試す：九十日間、まずシャドーモード、その後「提案」モード。自律的な実行は行いません。監督、統制、実地育成のコストを便益から差し引きます。
モニタリング	チームは時間の改善、例外、介入、専門家の作業時間、出所の再構成を記録します。システムには引き続き技術的な能力がありますが、監督を実際に行うと、正味の優位性はその手続と処理量を維持するだけのものではありません。
最終決定 - 2050 年 10 月 15 日	委任しない。「提案」モードさえ更新せず、離脱を実行し、代替策を維持します。ダヴィデは署名し、実在する便益を断念する選択を引き受けます。
維持する代替策	承認済み条項の集成、受け付け時点での例外特定、専門家の早期関与、案件を再構成するための専用時間。
「しない」コスト	待機中の提案、請求できない作業時間、提供事業者への支払残高、利益率の低下、失った顧客一社。企業は読める案件ファイルと、より多くの人に分散した能力を維持します。
責任者と再審査	ダヴィデ。終了記録は 2050 年 10 月 16 日付、再審査予定日は 2051 年 4 月 15 日です。

再開：2051 年 4 月 15 日

六か月後、最初の決定と理由を保存したまま、再審査で問いを再開します。ダヴィデは購入とは別の新たなテストを通じて、より狭い提案を検討します。再び「しない」と言うこともできます。

項目	2051 年 4 月 15 日の再開
新たな提案	提案書を生成せず、より低いコストで、進行中の案件ファイルへアクセスせずに先例を検索します。
テスト範囲	終結済み案件を用いた新たなシャドーテスト。購入は認可せず、外部への影響はありません。
根拠とコスト	待ち時間、遅い訂正、利益率、専門家の作業時間、監督、研修、実地育成を引き続き同じ収支に含めます。
しきい値と停止	開始前に成功基準、責任者、停止権限者を確定します。システムを購入せずにテストを停止できます。
決定	比較を再開しても、最初の拒否は取り消されません。終了時にも「委任しない」と、再び「しない」と言える具体的な可能性が残ります。

他の状況に応用できる基準

事例の要点 有用な製品であっても、特定の手続では、サービスから離脱する作業も含め、監督と依存を正当化するには便益が小さすぎることがあります。よりよい組織運営上の代替策がある場合、「委任しない」は、その時点でその権限を拒否したことを記録します。決定を再開できるよう、理由とコストが見える状態に保ちます。

この事例を他の状況に応用するための問い

問い	自分の状況で探すべき根拠
成功基準は必要性を測っていますか、それとも生産量だけを測っていますか？	
どの権限を「支援」または「提案」モードにとどめる必要がありますか？	
監督、研修、待ち時間、離脱のコストを負担するのは誰ですか？	
洗練され、説得力がありながら、決定的な点で間違っている、起こり得る誤りは何ですか？	
離脱テストでは設定とアクセス権限も再構成できますか？	
同じ必要性に応える組織運営上の代替策は何ですか？	
最初の拒否を消さずに再開することを正当化する変化は何ですか？	